

城山町ヒアリング調査報告書（抜粋）

1丁目に住む、大宮登と大宮智江、それに教え子の坂本祐子の3人は、「城山町の2030年を考える会」を設立して調査を行った。城山町は1982年に団地が始まってから、40年が経過しようとしている。全国の郊外に建設された公営団地と同じように、城山団地は少子高齢化が確実に進んでいる。2030年までの10年で、この町はどのように変化するのか。どのような問題があるのか。どうすればよりよい町になるのか。どうすれば支えあって生きていけるのか。みんなで一度立ち止まって考えてみたいと思った。

私たちが意識したことは、2つの視点だった。ひとつは、「いまここで豊かに生きるためにどうすればいいのか」、そしてもうひとつは、「この地区が生き残るためにどうしたらいいのか」であった。高齢者が中心のこの町で、豊かに生きていくための道を探ること、新しい住民がやってくるための道を探ることが、中心となった。

I 城山町の現状と課題

1. 城山町の人口と世帯数の推移

(1) 人口が大きく減少…現在は約1,700人が暮らしている

城山町の人口の推移を見ると確実に減少しているのが分かる。図1のように、最大3,000人を超えていた人口が現在は1,700人台になっている。半分近く減少している。城山地区は高齢者が増加し、若い世代と子どもの数が減少している。ここで生まれ育った城山の子どもたちは、大人になって、城山を出て行っているケースが多い。

さらに、減少の原因は、県営住宅にある。ここ数年で住民が減る傾向がある。

■最大 3,021 人 (1989) → 現在 1,728 人 (2018)

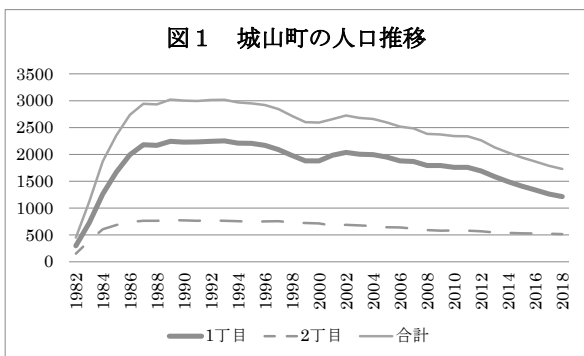
■最大 898 世帯 (2004) → 現在 778 世帯 (2018)

■1世帯あたりの人数

最大 3.5 人 (1998) → 現在 2.2 人 (2018)

■城山町の人口推移

■最大 3021 人(1989)→現在 1728 人(2018)



■最大 898 世帯(2004)→現在 778 世帯(2018)

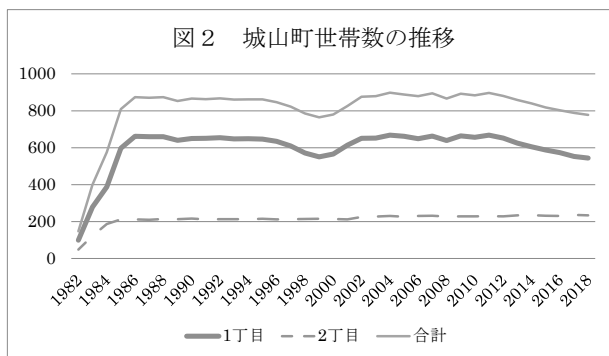


図3 戸建て住民 年代別状況 (2019)

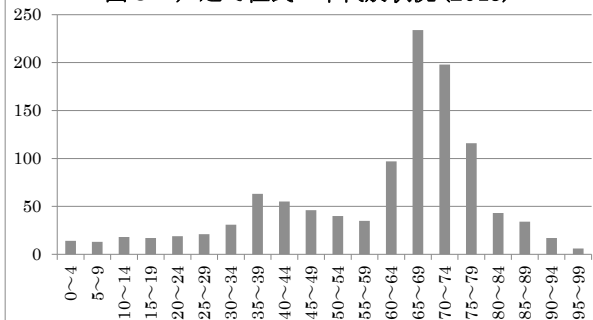
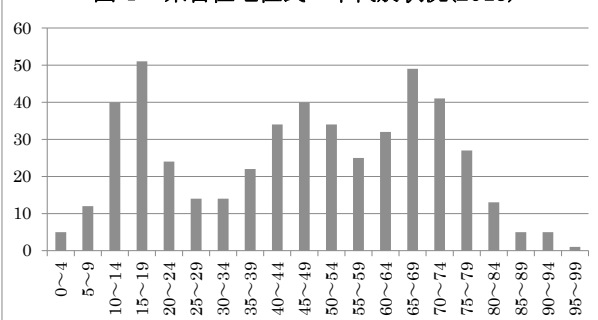


図4 県営住宅住民 年代別状況 (2019)



■最大 3.5 人(1998)→現在 2.2 人(2018)